

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03722

研究課題名（和文）ケアのアウトカム評価ツールの地域包括ケアシステムへの活用可能性に関する研究

研究課題名（英文）The application of a measurement tool of social care outcome to local administration of community-based integrated care system

研究代表者

森川 美絵（Morikawa, Mie）

津田塾大学・総合政策学部・教授

研究者番号：40325999

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域包括ケアシステムの課題である社会的ケアおよび利用者の生活の質を考慮したアウトカム評価を可能にするツールとして、社会的ケア関連QOL尺度「ASCOT」の日本語翻訳版を成功裡に開発した。そして、自治体のケア事業運営におけるアウトカム指標の構造化に成功した。また、臨床的なケア評価ツールとして社会的ケア関連QOL尺度が有効であることを帰納的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ケアの「社会的側面」「利用者にとっての生活の質」「アウトカム」という要素は、これまで重要だが政策評価において軽視されてきた。本研究では、これらの要素を含むケア評価がメインSTREAMING化した社会の実現に貢献すべく、そこから遡って、設計科学的アプローチで「ケアを可視化するツール」としての社会的ケア関連QOL尺度を開発した。また、当該ツールにより把握されるケアデータをエビデンスとした、これから求められるオルタナティブなケアシステム運営の実装に貢献した。

研究成果の概要（英文）：Community-based integrated care system is in need of outcome. This study will develop the translation of the 'ASCOT' (Adult Social Care Outcome Measurements Toolkit developed by the Univ. of Kent) into Japanese and verifying it, integrate items of Japanese version ASCOT into the local governments' survey of older people including Long-term care users, and investigate how the social care related quality of life data is able to be utilized for effective management of long-term care, especially community-based integrated care, at the local administration level as well as clinical practice level in Japan. The Japanese version of ASCOT SCT4 that has linguistic and statistical validity was successfully established. With regard to practical use of the measurement, under the collaboration with municipalities and clinical care specialists, benefits and efficacy of the established measurement in evidence-based management of care was confirmed.

研究分野：福祉社会学、福祉政策学、社会福祉学

キーワード：ケア 社会的ケア アウトカム QOL 生活の質 尺度 地域包括ケアシステム ケアマネジメント

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

日本では、地域包括ケアシステムの構築が目指されているが、成果を捉える基準は未確立であり効果的・効率的なシステム運営の観点から、ケアの質やアウトカムの評価に関する指標・尺度の開発とそれらを使ったエビデンスの収集の必要性があった。ケアの質・ケアのアウトカムに関する指標として特に注目したのが、社会的ケア関連 QOL (Social Care Related Quality of Life) である。ケアの質評価の国際的な議論においては、ケアの生活モデルや利用者視点重視という潮流の中で、社会的ケアの側面も含めたケアのアウトカム評価が重視されてきていた（長澤 2012）。しかし、各国で実際に利用されている指標は、身体機能や医療面の臨床指標、満足度指標が中心であり、生活・社会的側面の状態についての測定は十分ではないことも指摘されていた（OECD 2013, 筒井 2016）。

先行研究で注目されるのが、英国ケント大学が開発した社会的ケア関連 QOL (Social Care Related Quality of Life, 以下、SCRQOL) の尺度 the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) である。ASCOT は 8 つの領域、9 つの設問項目からなる。8 領域とは、「日常生活のコントロール」、「個人の清潔さと快適さ」、「飲食」、「個人の安全」、「社会参加と関与」、「有意義な活動」、「居所の清潔さと快適さ」、「尊厳」、である（Netten et al. 2012）。イギリスでは、「要支援・要介護者の QOL の促進」はケアのシステム運営の質保証の重要領域とされ、社会的ケア関連 QOL が指標として設定された（DoH 2012）。

2. 研究の目的

こうした国内外の政策動向・課題や学術的議論をふまえ、本研究では、社会的ケアの側面を考慮したケアのアウトカム評価に基づいた効果的・効率的な地域包括ケアシステム運営の方法論の構築を目的とした。研究課題は大きく二つ設定した。ひとつは、日本で利用できる社会的ケアのアウトカム評価尺度を確定することである。具体的には、ASCOT SCT 4（自記式 4 件法）をターゲットとして、その日本語版を開発することとした。二つ目の課題は、SCRQOL を主要なケアのアウトカム指標のひとつに位置づけ、当該指標に関するデータの収集分析を行い、こうしたデータのフィードバックが地域包括ケアシステムの運営に及ぼす影響を検討することである。

3. 研究の方法

(1) SCRQOL 尺度 "ASCOT SCT 4" の日本語版の開発

① 翻訳と言語的妥当性、および、統計的な信頼性・妥当性の検証

まず、ケント大学が開発した尺度 ASCOT SCT 4 (Adult Social Care Outcome Measurement Toolkit 自記式 4 件法) の日本語翻訳と、その言語的妥当性の検討を行った。尺度開発元より承諾をえて、尺度翻訳の国際標準 Consensus-Based Standards for the Selection of Health Measurement Instruments (COSMIN) に従い、一次翻訳、逆翻訳、試案作成、プリテストにより、日本語版の言語的妥当性の検討・確定を行った。これらについて、国際学会での発表 (Morikawa, Nakamura-Thomas, Moriyama, Shiroyiwa, Razik & Malley 2017) および、国内の原著論文としても刊行した (森川、中村、森山、白岩 2018)。言語的妥当性を備えた日本語版 ASCOT SCT 4 の作成は、本邦初の研究成果となった。

次に、日本語版の尺度について、信頼性・妥当性の統計的な検証を行った。検証には、SEM (Structural Equation Modeling) と IRT (Item Response Theory) などを用いた。また、既存の健康関連 QOL 尺度 (EQ-5D-5L) と本研究で開発した尺度間の関連性なども検討した。こうした ASCOT SCT 4 日本語版の統計的検証についても、学会発表 (SHIROIWA, MORIYAMA,

NAKAMURA, MORIKAWA, FUKUDA 2017; 中村・京極・森川他 2018; Nakamura-Thomas, Morikawa, Moriyama et.al 2018) および原著論文として刊行した (Nakamura-Thomas, Morikawa, Moriyama et.al 2019)。研究班が開発したASCOT SCT4日本語翻訳版は、原版開発者ケント大学の承認を得て、開発が本研究班によることの明記とともにサンプルがWEB公開された (<https://www.pssru.ac.uk/ascot/translations/>)。

② 日本語版独自のスコアリングアルゴリズムの開発

3年次以降は、ASCOT SCT4 日本語版について、日本国内の日本人に適合した独自のスコアリングアルゴリズムの開発を進めた。その成果は、国際学会で報告するとともに (Shiroiwa, Nakamura, Moriyama et.al. 2018)、原著論文としても刊行した (Shiroiwa et al. 2019)。

③ 尺度による SCRQOL のデータ収集と関連要因分析

ASCOT SCT4 日本語版は、開発段階から、協力の得られた自治体において、介護保険事業計画の策定準備として実施される在宅高齢者実態調査の項目に反映されている。当該自治体から実態調査結果データの提供をうけ (データの二次利用)、得点分布とその関連要因についての分析をすすめている。これらは SCRQOL に関する日本国内のエビデンスとなっており、学会発表 (森山ほか 2018) および論文化を進めている (森山ほか 投稿中)。

(2) 地域包括ケアシステムのアウトカム指標としての社会的ケア関連 QOL の導入、当該指標のデータ収集とフィードバック

まず、地域包括ケアシステムの運営におけるアウトカムデータの活用状況に関して、自治体や事業者へのヒアリングを通じ把握した。ヒアリングからは、ケアのアウトカムの分析や、分析結果の自治体計画・施策への還元サイクルが必ずしも機能していないことが示唆された。

地域包括ケアシステムのマネジメントは、自治体のケア計画・事業運営管理レベル、事業者の組織的なケアのマネジメントのレベル、臨床における個別のケアマネジメントのレベル、の3層構造をとる。本研究では、自治体レベルと臨床レベルで、アウトカム評価指標 SCRQOL (尺度としてはASCOT) の導入、導入によるアウトカムデータの収集、データのフィードバック、それらがケアマネジメントに及ぼす影響の検討を進めた。

① 自治体におけるアウトカム評価および尺度の導入

地域包括ケアシステムのアウトカム評価、および、研究班が開発する SCRQOL 尺度 ASCOT 日本版の自治体調査への導入に関して、自治体との共同体制の構築を行った。

まず、1自治体 (A自治体) から全面的な協力が得られた。当該自治体とは、自治体が実施する介護保険サービス利用の在宅高齢者の実態調査に、ASCOT SCT4 日本語版 (開発中のものを含む) を組み込むことや、研究班による実態調査データの二次利用に関しての合意形成を進めた。これらに関する自治体 (市長) と研究代表者との契約を締結した。

A自治体では、第7期 (2018~2020年度) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画を策定するための基礎資料収集のために2016年度に実施した高齢者実態調査において、開発中のASCOT 日本語翻訳版の項目を設問に加え、研究班は、これら在宅の要介護者・要支援者の実態調査データの二次分析により、SCRQOL の分布や関連要因の分析などを試行的に実施し、分析結果を自治体にフィードバックした。その成果は学会で報告した (森川、森山、白岩、大冢賀、松繁 2017; 森山、森川、白岩、大冢賀、松繁 2017)

これを契機にアウトカム評価の活用手法について継続的な意見交換を行いつつ、地域包括ケアシステムの主要3事業 (在宅医療介護連携、認知症対策、介護予防) について、アウトカム指標の洗い出しと構造化を、事業担当者 と本研究班が共同で検討する枠組みをつくり、ワーキ

ンググループを組織した（図1）。その成果は、学会で発表するとともに（森川、森山、大冢賀、松繁、高橋 2018）、A自治体のケアシステム運営に具体的に取り入れられた。すなわち、本研究班と自治体関係者が共同で作成した指標リストは、介護保険の事業運営に関する協議会・審議会で検討され、自治体としての活用が公式に承認された。

② 臨床レベルでの社会的ケア関連 QOL 尺度の活用手法の検討・開発

2年次（2017年度）から、首都圏のC市および近隣の地域包括支援センターなどの支援実務者と研究班を構成員として、「社会的ケア関連 QOL 尺度ASCOTの臨床活用に関する研究会」を組織し年3回程度継続的に開催した。研究会では、ASCOTを用いた個別ケースの調査を行い、その結果についてケアマネジメントの観点から検討した（図2）。これらから、ASCOTの臨床現場への導入は、多分野多職種連携に基づくケアに共通の視点を提供することに寄与する可能性が示唆され、ケア実践を促す臨床的なケア評価ツールとしての有効性が示唆された。

研究会の活動成果をまとめ、冊子「ASCOT 活用事例集—『生活の質』からケア・支援・サービスを考える：社会的ケア関連 QOL の測定」を作成した。

図1 アウトカム指標構造化ワーキングの枠組み

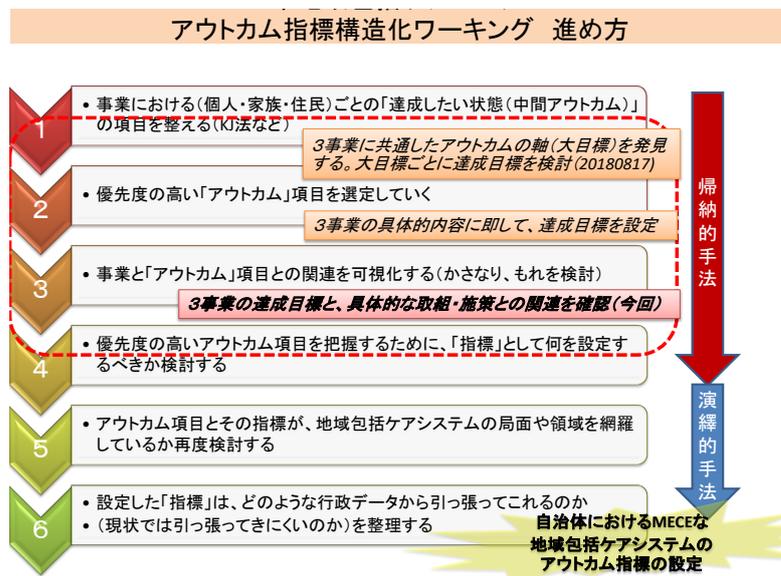


図2 事例検討の概要・成果（ケース1の例）

CASE 1 地域包括支援センター職員
本人自身の気づきや支援者側の本人理解につながった!

目的

- ☑ サービス調整に困っていないケース
- ☑ 多職種間で「本人の生活、本人の思い」についての理解を深めたい・共有したい

活用場面	定期訪問時
選定理由	昨年度評価した方の経年変化の確認のため
調査プロセス	<p>対象者選定 事前に電話で本人、サービス事業者に趣旨説明をし、面談にて説明</p> <p>調査の実施 ① 本人と面談しながら、自身で調査票に記入してもらった ② 後日、地域包括支援センター職員及びサービス事業所職員が調査を実施</p> <p>調査結果の共有 ① 本人が記入をした時に、昨年度と比べての変化を伝えた。ADL面では変化はなかったため、調査時点の生活環境の変化や本人自身の気持ちの変化、なぜそのように感じるのかなどを一緒に検討した ② 本人、地域包括支援センター職員、サービス事業所職員の調査結果を比べて、本人の様子の違いを共有</p>

活用によって得られた成果

- 本人の行動や言動の背景にある思いを共有することができ、本人が自分を振り返る機会になったと同時に、支援者側も本人への理解が深まった
- 病気の再発への不安を過度に感じていた方だったが、なぜそこまで思い詰めていたのかなどを感じ取ることができた
⇒ その部分を共感できることで、本人へのアプローチの仕方も変わってくるし、本人の捉え方も変化してくると思える

評価解釈の留意点

- 評価の数値に目を向けるのではなく、なぜそこにつけたのか、その思いを聞く
- それぞれの感覚を大切にし、本人が思い描くものを一緒にみる
- 評価することに意味を見出すのではなく、同じツールを用いて評価することで共通の価値観を理解し合う

4 研究の成果

(1) SCRQOL 尺度 “ASCOT SCT 4” の日本語版の開発

SCRQOL 尺度 “ASCOT SCT 4” の日本語版の開発という研究課題への成果を総括すると、翻訳手続きの国際的指針に適合し、統計的な検証をすませた、科学的に妥当性が担保された ASCOT SCT4 (利用者向け自記式) 日本語版とそのスコアリングのアルゴリズムを、本研究において世界で初めて成功裡に開発した。この成果は、高齢者等の成人の社会的ケア関連 QOL を、日本国内において測定・数値化することを可能にするものであり、地域包括ケアシステムが目指すアウトカムのエビデンス蓄積に大きく貢献するものである。

(2) 地域包括ケアシステムへの社会的ケア関連 QOL 指標の導入、データ収集とフィードバック

自治体との協働を通じ、自治体による地域包括ケアシステム主要事業の運営における SCRQOL を含むアウトカム指標の構造化、および、介護保険事業計画策定のための実態調査項目へのこれらの指標の導入に成功した。このことは、自治体がケアのアウトカムに関するエビデンスデータを継続的・体系的に収集する基盤を形成すること、またその指標に SCRQOL が公式に位置付けられることに寄与した。臨床レベルでは、SCRQOL 尺度 ASCOT が、多分野多職種連携に基づくケア実践において効果的なケア評価ツールとして有効であることが帰納的に示された。臨床場面で尺度の活用事例冊子「ASCOT 活用事例集—『生活の質』からケア・支援・サービスを考える：社会的ケア関連 QOL の測定」を作成し、研究成果を臨床現場に還元することにも寄与した。

(3) 成果総括

ケアをどのように評価するのかは、社会科学に大きな課題である。その評価は、従来軽視されてきた側面についての批判的検討を含めた、オルタナティブな見方が要請される。本研究では、オルタナティブな見方として、ケアの「社会的側面」「利用者にとっての生活の質」「アウトカム」という要素を重視し、そうした要素を含む評価がメインストーリー化した社会の実現にむけ、そこから遡って、設計科学的アプローチで「ケアを可視化するツール」としての社会的ケア関連 QOL 尺度の開発と、当該ツールによるエビデンス・データの収集、データに基づくケアマネジメントの実装化を試みた。プロジェクトの成果は、学術的知の蓄積に加え、その実践への還元という点で、相当程度の貢献を行えた。「ケアを社会的に評価する妥当な社会的仕組みを構築する」ことに向けた、設計志向・政策志向の研究の発展に寄与する研究となったと考える。

(引用文献) * 研究班の成果に関する文献情報は、後述の主な発表論文等を参照のこと。

長澤紀美子 (2012) 「ケアの質の評価指標の開発と課題」『季刊・社会保障研究』48(2):133-151.

筒井孝子 (2016) 「ケアの質評価：国際的な到達点と日本の今後」『社会保障研究』1(1):129-147.

DoH (2013) *The Adult Social Care Outcomes Framework 2014/2015*, Department of Health..

Netten A, Burge P, Malley J. et.al. (2012) “Outcomes of social care for adults: developing a preference-weighted measure,” *Health Technology Assessment*, 16:1-165.

OECD (2013) *A Good Life in Old Age?: Monitoring And Improving Quality In Long Term Care*, Paris: OECD.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森川美絵、中村裕美、森山葉子、白岩健	4. 巻 67(3)
2. 論文標題 社会ケア関連QOL尺度ASCOTの日本語版(自記式4件法)の開発：言語的妥当性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療科学	6. 最初と最後の頁 313-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20683/jniph.67.3_313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiromi Nakamura-Thomas, Mie Morikawa, Yoko Moriyama, Takeru Shiroiwa, Makoto Kyougoku, Kamilla Razik, Juliette Malley	4. 巻 17:59
2. 論文標題 Japanese translation and cross-cultural validation of the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) in Japanese social service users	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Health and Quality of Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1186/s12955-019-1128-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Takeru Shiroiwa, Yoko Moriyama, Hiromi Nakamura-Thomas, Mie Morikawa, Takashi Fukuda, Laurie Batchelder, Eirini Saloniki, Juliette Malley	4. 巻 29
2. 論文標題 Development of Japanese utility weights for the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) SCT4	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Quality of Life Research	6. 最初と最後の頁 253-263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1007/s11136-019-02287-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 高橋秀人、森川美絵、森山葉子	4. 巻 83 (9)
2. 論文標題 英国の地域包括ケアに用いられる社会指標の枠組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 683-689
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Hiromi Nakamura-Thomas, Mie Morikawa, Yoko Moriyama, Takeru Shiroiwa, Kamilla Razik, Juliette Malley
2. 発表標題 Validity and reliability of ASCOT, a new assessment measuring Quality of Life among older adults with Long-term care services
3. 学会等名 International Forum on QUALITY & SAFETY in HEALTHCARE, Amsterdam, 2018 May2-4. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeru Shiroiwa, Yoko Moriyama, Hiromi Nakamura, Mie Morikawa, Takashi Fukuda, Laurie Batchelder, Eirini Saloniki, Juliette Malley
2. 発表標題 Development of Japanese preference weight for the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) SCT4
3. 学会等名 ISPOR 21th Annual European Congress, 10-14 November, 2018, Barcelona, Spain. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村裕美、京極真、森川美絵、森山葉子、白岩健
2. 発表標題 要支援・介護高齢者の社会的ケア関連QOLを測定する評価尺度日本語版の構築
3. 学会等名 第52回日本作業療法学会（名古屋）、2018年10月
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川美絵、森山葉子、大野賀政昭、松繁卓哉、高橋秀人
2. 発表標題 自治体との協働により構築した地域包括ケアのアウトカム評価の枠組みと体系の提案
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会、一般演題（示説）、2018年10月24日～26日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森山葉子、森川美絵、高橋秀人
2. 発表標題 介護者幸福感和要介護者幸福感的強い相関-A自治体要支援・要介護認定者実態調査より
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会、一般演題（示説）、2018年10月24日～26日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川美絵
2. 発表標題 地域包括ケア政策の動向とアウトカム評価としてのSCRQOL
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第6回研究学術集会シンポジウム「介護領域におけるPRO/QOLの展開 ASCOT(The Adult Social Care Outcomes Toolkit)を例に」(東京都中央区)2018年12月1日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村裕美
2. 発表標題 ASCOTの信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第6回研究学術集会シンポジウム「介護領域におけるPRO/QOLの展開 ASCOT(The Adult Social Care Outcomes Toolkit)を例に」(東京都中央区)2018年12月1日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白岩健
2. 発表標題 ASCOTのスコアリングアルゴリズムの開発
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第6回研究学術集会シンポジウム「介護領域におけるPRO/QOLの展開 ASCOT(The Adult Social Care Outcomes Toolkit)を例に」(東京都中央区)2018年12月1日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森山葉子
2. 発表標題 地方自治体におけるASCOTを用いた実態調査
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第6回研究学術集会シンポジウム「介護領域におけるPRO/QOLの展開 ASCOT(The Adult Social Care Outcomes Toolkit)を例に」(東京都中央区)2018年12月1日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川美絵
2. 発表標題 臨床応用に向けた取り組み
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第6回研究学術集会シンポジウム「介護領域におけるPRO/QOLの展開 ASCOT(The Adult Social Care Outcomes Toolkit)を例に」(東京都中央区)2018年12月1日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mie Morikawa, Hiromi Nakamura-Thomas, Yoko Moriyama, Takeru Shiroiwa, Kamilla Razik, Juliette Malley
2. 発表標題 Linguistic validation of the ASCOT SCT4 in Japanese: a small but significant step toward an outcome-based administration of the long-term care system in Japan
3. 学会等名 International Forum on QUALITY & SAFETY in HEALTHCARE, Kuala Lumpur, Malaysia; 2017 August 24-26 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takeru SHIROIWA, Yoko MORIYAMA, Hiromi NAKAMURA, Mie MORIKAWA, Takashi FUKUDA
2. 発表標題 COMPARISON OF ELDERLY CARE RECIPIENTS' SOCIAL CARE-RELATED QUALITY OF LIFE (SCRQOL) WITH HEALTH RELATED QUALITY OF LIFE (HRQOL) IN JAPAN
3. 学会等名 ISPOR 20th Annual European Congress, 2017 November 4-8, Glasgow, Scotland (Scottish Event Campus (国際学会))
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森川美絵、森山葉子、白岩健、大冨賀政昭、松繁卓哉
2. 発表標題 要介護高齢者の社会ケア関連QOL：日本語版ASCOTによる測定(1)
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会、一般演題（示説）、かごしま県民交流センター（鹿児島県鹿児島市）2017年10月31日～11月2日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森山葉子、森川美絵、白岩健、大冨賀政昭、松繁卓哉
2. 発表標題 要介護高齢者の社会ケア関連QOL：日本語版ASCOTによる測定(2)
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会、一般演題（示説）、かごしま県民交流センター（鹿児島県鹿児島市）2017年10月31日～11月2日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大冨賀政昭，森川美絵，柿沼倫弘，重田史絵，森山葉子
2. 発表標題 障害福祉・介護保険サービスの社会的側面からのアウトカム評価の検討
3. 学会等名 第8回厚生労働省ICFシンポジウム（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

International projects-ASCOT JAPAN https://www.pssru.ac.uk/ascot/projects/ Translations-ASCOT Japanese service user version https://www.pssru.ac.uk/ascot/translations/ ASCOT International projects: Japan https://www.pssru.ac.uk/ascot/projects/ ASCOT Translations: Japanese https://www.pssru.ac.uk/ascot/translations/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森山 葉子 (Moriyama Yoko) (10642457)	国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官 (82602)	
研究分担者	中村 裕美 (Nakamura Hiromi) (20444937)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授 (22401)	
研究分担者	白岩 健 (Shiroiwa Takeru) (20583090)	国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官 (82602)	
研究分担者	福田 敬 (Fukuda Takashi) (40272421)	国立保健医療科学院・その他部局等・部長 (82602)	
研究分担者	松繁 卓哉 (Matsushige Takuya) (70558460)	国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官 (82602)	
研究分担者	大冢賀 政昭 (Otaga Masaaki) (90619115)	国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官 (82602)	
研究協力者	高橋 秀人 (Takahashi Hideto)		
連携研究者	田宮 菜奈子 (Tamiya Nanako) (20236748)	筑波大学・医学医療系・教授 (12102)	